

鹿大祭の思い出

理学部同窓会（平成3年卒） 満村 和洋

全国各地でご活躍の同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。私は平成3年3月に鹿児島大学理学部化学科を卒業し、現在まで鹿児島県立高校の理科教員をしております。卒業後四半世紀が経ちましたが、授業を担当した生徒が科学に興味を持ち、鹿児島大学理学部に進学した者もあり、鹿児島大学の様子を聞かせてもらっています。施設が新しくなり、学科改組などで大学の雰囲気も変わったかと思いますが、教え子の話から大学祭だけは私の学生時代と変わらないように思っております。そんな折、鹿大祭のみこしパレードが今年度限りだということを知りました。返す返すも残念でなりません。

私が在学中は2年生がサークルの模擬店やみこしに携わるため、学部の方は3年生が担当でした。あまりまじめな学生でなかったのと、南国（鹿児島よりも南）の出身で寒さが苦手だったことで、後期の講義をサボる私を出席させるためか、私がみこしの担当になりました（おかげで午後の実験の講義を履修できました）。この前の年、政治献金を批判するみこしで新聞の取材を受けたことから、みこしのテーマはすんなり決まりましたが、材料の調達、作製の段取り、作業後の飲み会の準備、連日の作業で参加人数激減時の不満への対応など、大学生活の中で最も私にはハードではありましたが、楽しく充実した期間あり、今なお鮮烈な記憶でもあります。

学校教員の仕事も意見の調整や段取りが必要なこともありますが、それには学生時代に経験したことが大いに役立っています。また、行事を通して人との関わり合い方、交友を深められることを学べる大事な機会であるとの考えから生徒を学校行事へ積極的に取り組ませています。加えて、子どもの小学校で「おやじの会」として活動しています。PTA活動が主に母親中心だったので、おやじも頑張ろうと各小学校で立ち上げられた会です。運動会の駐車場整備や誘導、バザーでの餅つき体験などPTA活動を補完することや、緑門・門松作りなど独自活動も行っています。仕事や地域活動へ参加がスムーズに行えるのは学生時代の経験があるおかげだと思います。今後も鹿児島大学生が多種多様な経験を糧として、進取の精神で活躍されることを同窓生の一人として祈念しています。



平成元年 鹿大祭みこしパレードの様子



右：大学本部前での出発式で（左手前が筆者） 右：大学近くの交差点で